

2024年3月期 第3四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2024年2月9日

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2024年3月期第3四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	24年3月期 2Q	24年3月期 3Q	対前四半期
	売上収益	2,414	2,620
営業利益	▲1,008	▲650	+358
マージン	▲42%	▲25%	+17pt
当期純利益	▲860	▲649	+211
マージン	▲36%	▲25%	+11pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	869	833	▲36
PPA影響額 ^{3, 4}	▲16	▲4	+12
法人所得税費用	▲364	▲266	+98

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第3四半期におけるEBITDAは、営業利益▲650億円に減価償却費及び償却費833億円を加算した183億円となりました。
3. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。
4. 営業利益からPPA影響額及びその他の一過性の損益を除外したものが、当社グループの恒常

的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第3四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲650億円からPPA影響額▲4億円及び受取保険金76億円を除外した▲722億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲649億円からPPA影響額▲4億円及び受取保険金76億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲699億円となりました。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	24年3月期 2Q	24年3月期 3Q
出荷量 ¹ (QoQ)	10%台前半の 減少	横ばい
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	1桁%台後半の 上昇	10%台前半の 上昇

1. 記憶容量ベース

- 第3四半期連結会計期間は、需給バランス改善の進展及び円安による販売単価上昇が継続し、前四半期比で増収となった
- 販売単価の上昇とこれに伴う棚卸資産評価減の戻入が寄与し、前四半期比で営業損失は縮小した
- ドルベースでの販売単価は1桁%台後半の上昇となった

製品開発・技術開発

- 業界初、車載機器向けUFS ver. 4.0準拠の組み込み式フラッシュメモリのサンプル出荷
- 2TBのmicroSDXCメモ리카ードの発売

特定半導体生産施設整備等計画の認定について

- キオクシア株式会社、キオクシア岩手株式会社、キオクシア株式会社とウエスタンデジタルコーポレーションの製造合併会社は、最大1,500億円の助成金が交付される予定の、四日市工場および北上工場における「特定半導体生産施設整備等計画」の認定を受けた

ハイライト (2/2)

市場動向及び見通し

- フラッシュメモリメーカー各社が需要に応じた生産を行う中、顧客の在庫水準正常化を受けて需給バランスの改善が続いており、販売価格は上昇に転じている
- PC及びスマートフォン向け需要は、顧客の在庫水準の正常化、大容量メモリ搭載モデルの増加、ソフトウェア更新に伴う買い替え需要により、一層の回復が見込まれる
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、顧客の在庫水準正常化傾向や、企業のIT投資の再開といった市場回復の兆候があり、今年後半には回復が期待される
- 今後、AIを搭載したPCやスマートフォンの普及が期待され、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 需要動向に合わせた生産管理と販管費のコントロールを継続し、市況に関わらず確実に利益を生み出すべく、製造コスト削減及び注力製品の開発加速に継続して取り組む

KIOXIA